

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	3610123667
法人名	医療法人 道志社
事業所名	グループホーム 大神子
所在地	徳島県徳島市大原町大神子22番地1 (電話) 088-662-1210
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月 5日

【情報提供票より】(平成19年 8月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.87 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200~31,500 円	その他の経費(月額)	光熱費6,300円・その他実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月22日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 81 歳	最高	89 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	リハビリテーション大神子病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大神子海岸・日ノ峰神社が近くにあり、風景明媚な環境にあるホームである。ボランティアの方の習字や俳句など地域の方々との交流が多くもたれており、理念に沿ったケアがされている。利用者の表情は和やかで落ち着いており、家族の面会も多く、面会に来られやすい配慮がされている。職員間、利用者間共により関係が築かれており、地域や自然に触れ合いながら、ケアサービスを提供されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の訪問では特に課題はなかった。現在の取り組みとしては、利用者の病状の重度化、終末期に対する家族の意向を十分に話し合うことであり、家族や地域の方、市町村の担当者等と話し合い、連携の場を持つことに取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員全員が、自己評価に取り組み、ケアサービスの更なる向上に取り組まれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議では、防災訓練や地域での情報を検討したり、地域の方や家族の方の交流の場となっている。また、討議内容を基に職員全員が意見を出し合い、ケアサービスについて再度検討し、向上に役立てる取り組みがされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族会、ホームの行事への参加、運営推進会議、面会時等、機会あるごとに家族の方々話し合う場を持ち、意見や苦情、不安等を聞く場を多く持っている。その内容をホームの運営に反映する取り組みがされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	近所の方々とは海岸への散歩時や祭り、ゴミ拾い等地域活動への参加により交流を図っている。また、運営推進会議に地域の方に参加をしてもらうことで地域の情報やホームへの理解をってもらう機会としている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人本位の継続的な支援や地域の中でその人らしく暮らしていただけることを、事業所独自の理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日唱和しており、管理者と職員が理念を共有し、実践に向けて日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月1回、公園や海岸の道路のゴミ・缶拾い、デイサービスセンターの催し、地域の祭り、運営推進会議等で地域の方々と交流を深める取り組みをされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者、職員全員が取り組み作成されている。また、外部評価の結果を職員全員が把握し、利用者へのより良いケアサービスのために活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族や利用者、地域の方との交流の場であり、情報交換の場として活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携については、介護保険申請や市役所に行ったときに係の方と顔なじみとなり、コミュニケーションを図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	母の日を家族会の日としている。また、運営推進会議の参加や夏祭り等の行事への参加案内をしている。面会時や電話等での報告と定期的に3ヶ月に1回は暮らしぶりや健康状態の報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時等機会あるごとに、不満・苦情等の意見を聞くよう配慮され、家族との話し合いの機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代は開所以来1名と少ない。また、ホームは1ユニットであるために職員の交代もないため利用者への影響は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間の研修計画が立てられており、研修後の報告は職員間に徹底されている。働きながら研修が受講できる体制づくりがされている。研修報告書綴りには、職員の確認印がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入されており、情報交換や研修等に参加され、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	電話での相談から体験入居等、段階に応じたサービスが利用者、家族にされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴から趣味や特技を把握している。利用者から職員が教わるが多くあり、野菜作りや調理等の時間は利用者職員が共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握にはセンター方式を取り入れ、利用者、家族の方々の協力も頂きながら、職員が共有し利用者の意向の把握がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	運営推進会議や面会時等の機会に、利用者がより良く暮らすために意見を頂きケア計画の作成に取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個人記録や管理日誌の記録を朝礼、ミニカンファレンス等で情報交換し、ケア計画が立案されている。また、状態変化時には見直し、修正がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に合わせた対応がされており、家族と相談し、その都度適切な対応がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する病院や、診療所での診察と隣接している病院で定期的な診察がされている。病院と隣接しているので緊急時は24時間の対応がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、利用者や家族と折りをみて話し合っているが、方針を共有するまでには至っていない。	○	現在は家族と相談中であるが、今後家族と機会あるたびに更に検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しての対応は、食事の声かけの対応から尊重した態度や言葉かけであった。記録物等は職員の部屋に入っても目に付かないように、名前等個人情報がわからないように保管・管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を把握し、希望を聞いて食事の場所や外出などの支援がされている。理念の「自分らしく」を活かした取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	徒歩で10分程度のところに公園や海岸があり、そこに調理した食事を持って行き全員で外での食事会をしている。ホーム内で食事を準備し、外での昼食会を再々されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する時間や方法が取られており、シャワー浴やお風呂の声かけがされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字や俳句、野菜作りなど、利用者の得意とする趣味を活かしホーム内での役割や楽しみを活かして生活をされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、外出、散歩など希望に応じた対応がされている。ホームの外は自然が多く、公園や海岸で海を見るなど再々に外出されている。夏の日射しが強いときは、時間帯を見計らい車椅子や杖を使用しながら歌を歌ったりお話を楽しく外出できるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態を把握し、鍵をかけない自由な生活ができるよう安全面に配慮した支援がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時等の避難訓練は月1回実施し、連絡網も電話の傍のよく目に付く場所に明示されている。運営推進会議のときにも議題として取り上げて地域の方々にも協力をしていただけるように話し合いを持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接病院の管理栄養士の献立のもと、ホーム内で利用者と共に調理を行っている。利用者の体調や好みに応じた調理工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	森林に囲まれ、鳥や虫の鳴き声ができるホームである。玄関には長椅子があり、裏庭にはテーブルと椅子が設置され、思い思いに過ごせる居場所、空間がある。庭には季節の花や草木が植えられている。リビングは1階と2階にあり、それぞれに居心地良く過ごせる空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が沢山持ち込まれた居室やすっきりとした居室と、利用者の好みを活かした配慮がされている。		